

『進化するゲノム編集技術』正誤表

この度は『進化するゲノム編集技術』をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

本書の内容に以下の訂正箇所がございましたので、
訂正させていただきますとともに、深くお詫び申し上げます。

箇所		誤	正
P.291	本文 下から10行目	～(図1)～。このような～	～(図1 ¹⁾)～。このような～
P.291	本文 下から8行目	～組換え(図2(a))が起こり、～	～組換え(図2 ²⁴⁾ (a))が起こり、～
□-21 P.292	図1 キャプション	図1 二本鎖DNA切断修復機構とヘテロ接合性喪失との関連性	図1 二本鎖DNA切断修復寄稿とヘテロ接合性喪失との関連性 ¹⁾
□-22 P.293	図2 キャプション	図2 二本鎖DNA切断修復機構の3つの経路	図2 二本鎖DNA切断修復機構の3つの経路 ²⁴⁾
P.293	本文 上から7行目	交差型機構 ⁶⁾ (図3左のAB1, ～	交差型機構 ⁶⁾ (図3 ¹⁾⁷⁾²⁴⁾ 左のAB1, ～
□-22 P.294	図3 図内説明文	非交差型 ※口絵参照	非交差型 The Genetics Society of America granted permission. ※口絵参照
□-22 P.294	図3 図内説明文	左: 非交差型相同組換えによる遺伝子修復のメカニズム, 右: 交差型相同組換えによるドナーベクター挿入のメカニズム(両端矢印: 遺伝子変換領域)	左: 非交差型相同組換えによる遺伝子修復のメカニズム ¹⁾⁷⁾ , 右: 交差型相同組換えによるドナーベクター挿入のメカニズム(両端矢印: 遺伝子変換領域) ²⁴⁾
P.295	本文 下から4行目	～侵入し(図4のAB1, ～	～侵入し(図4 ²⁴⁾ のAB1, ～
□-23 P.295	図4 キャプション	図4 ヒト細胞で従来型ジーンターゲティングによって見出されたSDSAベースの非交差型機構を介した無作為挿入のメカニズム	図4 ヒト細胞で従来型ジーンターゲティングによって見出されたSDSAベースの非交差型機構を介した無作為挿入のメカニズム ²⁴⁾
P.300	文献 追加		²⁴⁾ Y.Yamada et al. : Regulation of homologous integration in yeast by the DNA repair proteins Ku70 and RecQ, <i>Mol Gen Genomics</i> , 273 , 167–176 (2005).